

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会 議 の 名 称	第1回茅野市こども・家庭応援会議		
開 催 日 時	令和8年7月23日(金) 午後6時30分～午後8時20分		
開 催 場 所	茅野市議会棟 大会議室		
出席者(名簿順)	【委員出席】 市川純章委員、永嶋陽子委員、伊藤深雪委員、竹内ひかり委員、小澤佳奈委員、柳澤由加里委員、樋口和津子委員、濱佑哉委員、矢島豊委員、酒井恵一委員(代理)、血脇洋恵委員、山口恭子委員(代理)、猿谷大和委員、伊藤美奈委員、小林俊男委員、両角勢津子委員、丸山順子委員 【市側出席】 今井市長、山田教育長、五味こども部長、丸茂健康福祉部長、立石社会福祉課長、国枝健康づくり推進課長、両角こども課長、山本幼児教育課長、渡辺学校教育課長、吉澤教育総務係長、今井学務係長、野明こども係長、五味こども・家庭相談係長、飯島こども係こども育成担当、國枝こども・家庭支援係長、篠原発達支援センター兼やまびこ園長		
欠席者(委員のみ)	赤沼今朝廣委員、原田正樹委員		
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発 言 者	協 議 内 容 ・ 発 言 内 容 (概 要)		
こども課長	司会進行		
市長	1 開会 2 委嘱書交付 ー 市長から委員へ委嘱書の交付 3 市長あいさつ 皆さん、こんばんは。大変お忙しいなか、またお疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。ただいま、皆様に委嘱書をお渡しさせていただきました。これから2年間、よろしくお願いします。 このこども・家庭応援会議は、茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例に基づき、子ども及びその家庭を継続的に支援・応援するために設置され、こども・家庭応援計画、通称どんぐりプランの進行管理を行っていただいています。平成14年に第1次計画が始まり、現在は第3次のプランとなっています。 どんぐりプランが出来たころから考えると、社会や子どもたちの環境も変わり、担い手も減ってきています。昔から続いている事の中には良いことももちろんありますが、今までのやり方を見直し、変えていくところもあって良いと思っています。 子どもとその家庭の子育て・子育てを支援・応援していくために、みなさんのお力添えをいただけるとご意見を賜れればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いします。		

教育長	4 教育長あいさつ 本日は大変お忙しい中、このように皆様お集まりをいただき、誠にありがとうございます。 暑い日が続いていますが、本日無事小学校と中学校2校で一学期終業式を迎えることができました。 この会議は、現在進行している第3次どんぐりプランの進行管理についてご審議いただく会議です。目標指標といった数値だけではなく、お集まりのみなさんのそれぞれの立場から、子どもたちを取り巻く子育ての環境や課題、子どもを支える活動のあり方、様々な視点からのご意見を皆様方からちょうだいする中で、子どもたちのために何ができるか、家庭のために何ができるか、子育て子育ての施策の充実に努めて参りたいと考えています。どうかよろしくお願いします。
こども課長	5 自己紹介 【資料1】の名簿順に委員、市側 自己紹介 6 会長、副会長選出 続きまして、会長・副会長の選任に移ります。令和8年度は委員の任期の初年度となるため、会長・副会長を選出します。 ここで立候補をとらせていただきたいと思います。会長副会長に立候補される方、どなたかいらっしゃいますでしょうか。 立候補ないようですので、事務局から案を出したいと思います。
事務局	事務局案として、会長・副会長を市川委員、小澤委員にお願いしたいと考えております。お二人は当会議に団体代表として継続して選出をされており、昨年度から始めている第4次どんぐりプラン策定に関する専門委員会にもご出席をいただいております。また、まさに現在子育て中の当事者でもあり、今年度も専門委員会での議論を続けていくことから、市川委員に会長を、小澤委員に副会長をお願いしたいと考えております。
こども課長	今申し上げた事務局案に、ご質問やご意見などなどある方は、挙手をお願いします。 ないようですので、事務局案でよろしければ拍手をお願いします。 (拍手) それでは、市川会長、小澤副会長は前の席に移っていただき、恐れ入りますがごあいさつを一言ずつお願いします。
会長	ご紹介いただきました市川と申します。 コミュニティは、やはり培ってきた歴史や文化があるので、その上に私たちは生活ができていますので、その良さを守っていく、継承していくってところは大変重要な役割だろうと思います。同時に、やはり状況は変わってしまう、つまり前提条件が変わればやるべきことは変わるはずだということになり、それを感じている現在の我々がそれを加味するということだと思います。継承したことを、現在の状況、そしてそれが未来にどんな影響を残すのか、そんなことを一

副会長	生懸命考えながら常に見直していかなきゃいけないのかな、そんなふうに思っております。その中で、この会議が市民と協働の中での最上位の機関として認定されていますので、皆さんと一緒にそういった方向付けの議論が深められればなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 改めまして、副会長をさせていただきます小澤です。 先ほど教育長さんのお話を聞いていた中で、子どもたちのために、家庭のために何ができるのかというお言葉が、すごく私の中で響いたものがありました。子どもたちのためにと言った時に、自分の子どもも今中学生と高校生がおります。子育て真最中でやっている中で、自分の子どものことも思いながら、実際私が今所属している、自己紹介の時にも話した茅野市リーダーズクラブは高校生主体のクラブですけれども、下は小学校5年生から上はシニアリーダーまで入れると、40代の世代までになっています。その中で本当に今できることって何かな、子どもたちのために何ができるかなというところを、初心に戻って考える機会になるかなと思っています。よろしくお願いいたします。 7 茅野市こども・家庭応援会議の役割について 【資料2】茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例に基づき、本会議の役割について事務局から説明。 ―以降は市川会長が進行 8 会議事項 (1)審議会等の会議の公開の確認 【資料3】茅野市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき事務局から説明。 本日の会議を公開とすること、会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認。 ― 承認 (2)第3次茅野市こども・家庭応援計画の進捗状況について 【資料4】により、こども課長から進捗状況について説明。
委員	進捗報告書の12番の「夢のある子どもの育成」で、これに付随しての資料ですが、最後の項目の施策12の指標の表ですが、2021年アンケート未実施で、昨年度までのアンケート未実施となっています。課題としては、こども会議というのが閉じられてしまったっていうのもあったし、タイミングの中でアンケートを取る機会がなくなってしまったのかなとも思いますが、アンケート未実施にあたっては、どんな理由でそうってしまったかっていうのがコメントとして記載されているといいかなとも思いましたし、もし実施が難しいようでしたら、一旦この項目を閉じてしまうか、もしくは違う項目の方にこれを組み込めるようならそうしてもいいかなとも思いますが、いかがでしょうか。

こども課長	ご指摘の通り、目標とはなっていますが、継続ができていない指標があります。第4次どんぐりプランを今後作っていく中では、継続できる目標を考えていきたいと思っています。また、子どもの声を聞くという機会も、コロナ禍を経て、休止状態にはなっていますが、どんな目的でどのようにやればいいのかという検討をしながら、どんな形がいいのか、子どもとか若者が集まっているところに向向いていって意見を聞くということもいいのかなど、どんなやり方が良いか考えていきたいと思っています。
会長	今の質問に関連して、中間の見直しをするときに、意見交換の中でできないことは消した方が良いのではないかとというご意見もありました。しかし、やらなきゃいけなかったことと、できなかったことがあり、できたことだけ残すと大事なことが消えてしまうのではないかとということで、やらなければならなかったけれどできなかったこととして、積極的に残した方が良いのではないかとというご意見でした。できたことだけを残していくとできたことにはなりますけど、そこで実は大事な見落としが起きてしまうのではないか、そのような考え方もあって、途中でできないのだったら(指標を)消すということもできたかもしれませんが、残すという面はあったかとは思いますが。課題は課題で残して、やるべきことは残そうというような考えはありました。 他いかがでしょうか。
会長	質問というか難しいところですが、11番の「育ち合う環境づくりの推進」の課題を見た時に、「子どもの数が減っている中で、地域の大人は子どもたちが参加できる様々な機会を作っている。しかし、子ども及び生活様式の変化、祭り、地域行事への参加など減少傾向にある」と書いた時に、これは状況であって、課題はなんだろうと思いました。例えばこの問題意識は、何になりますか。
こども課長	主な取り組みのところに書かせていただいています。地域における行事は、コロナ禍を経て一旦は数が減り参加者が減りましたが、行事の数や参加者は増えてはきています。子どもや保護者の生活様式、いろいろなニーズ、何を重視していくかという考え方の変化もあり、地域の行事への価値観っていうのも、やはりご家庭で変わってきているということも考えられるため、このように記載しております。
会長	難しい質問をしたと思いますが、僕も実はプランを見ていくときに、考え方を改めた方がいいのかな、どうだったら良かったらどうか、僕たちは何を望んでいたのだからかっていうことがないと、減少したことが問題になってしまう。でも、数が少なくなったこと自体が問題なのだろうかとか、何がしたかったのか、どうだったら良かったかなというのがないと、課題というのも実は定義しづらい。例えば参加人数の増と言われたらそうだけれども、なんで参加人数の増を目標にしたのだからかということ、見失うのかなと感じています。それを見た時に、実はプランの全般的にやることはたくさん書いてありますが、どこへ到達したかったのかということをもっと入れれば良かったかなというような印象は受けております。第3次はこれで行くと思いますが、とても莫大な理念が掲げられて、そこから何を指すのかを考えてもいいのかなと感じました。数が増えたら我々はハッピーだろうかとか、そういう見方も必要な時代が来たかなと、そのような印象を受けました。

	他なにかお気づきの点ありますか。 特になければ、今日はこの後皆さんの方からご意見をいただくという時間を充実させていくということもありますので、このプランの進捗に対する討議はここで閉じようかなと思います。ありがとうございました。関連することがありましたら、次の意見交換の中でもぜひご発言いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 では、これで会議事項終了なので進行をお返しいたします。
こども課長	9 意見交換 続きまして、意見交換の時間を取りたいと思っております。本日、事前に記入し、受付に提出していただいた資料をコピーさせていただきましたのでお配りします。 団体の活動や、活動をしていて良かったこと、課題だなと感じていること、日頃活動から見える子どもたちの様子、気になることなど、皆さんの団体や子どもたちについてお一人ずつご意見をお聞かせいただければと思います、時間を設けさせていただきます。それでは市川会長から順々にマイクをお願いします。
会長	【どんぐりネットワーク茅野】 私たちの団体は、どんぐりプラン推進という大きな命題があり、構成員としましては、いろんなボランティア活動をしている組織の方たちが主になります。PTA の連合会だとか保護者会などもありますし、いろんな組織が入っています。そういった方たちとの議論の中で、近年重視しているのは、それぞれの団体がそもそもどういうことを狙って活動しているのかというのを互いに理解しましょうということをやっています。その中で協力できそうなことがあれば連携促進ということをやっております。要するに、協力し合った方がもっと効果的にいこうと考え活動しています。 その中で抱えている課題として多いのは、会員減少、この活動を続けられるだろうかというようなことも聞かれてきます。また、その一方で新しく生まれている団体というのも多くて、それらは声をかけて幹事会というところに参加していただき、連絡や情報共有しております。私がこのネットワーク委員会をやって気づいたのは、確かにボランティア活動、テーマ性を持った活動の方は集まって意見交換とかができていたけれども、当の市民家庭の方はどうだろうか、組織の声が集まっても、市民の声っていうのはちょっと届かない、なかなか拾えないのかなということもありまして、数年前から市民アンケートという形で実施しています。茅野市の施策だとか施設だとか、そういうところの満足度だとか不満だとかを集約しております。それは当会のホームページに公開などしておりますが、基本的には概ねその施設とかには満足しているというような市民の声は多かったりする。あとはその自由記述の中でいろんなことが出てきておりまして、そういったところを議論しようかなと考えています。近年は市民のご意見が結果的には結論だろうというふうに僕らは見えて、結論に至る背景には何があったのだろうかというような市民討議のようなものをしていかなきゃいけないのかな、というところが課題意識であります。 あとは、定期的に毎月どんぐりサロンと称して勉強会を行っております。いろんな活動している団体の今やっていること、それから抱えている課題などを市民の方にも呼びかけ合ってやっています。3年以上続いておりまして、大変有

委員	意義な勉強は続いているかなと思います。 また、どんぐりネットワークの中でも、自分自身の子どもの中学生、高校生とか、子どもを見ている中での意見なども議論をしているところですが、やはりいろんなところで出てくる課題は、時間がなくなっているのではないかなということです。この時間をどうやって作れるか。そういう意味では、いろいろと施策が変わっていますけれども、その各家庭の負担状況だとか、そういったものをちゃんとウォッチしていかなければいけないのではないかな。特に注目したらいいのかなと思っているのは、部活のあり方が変わったことによって、負担の形が変わったのではないかなということです。かなり親の協力が必要になってきています。活動時間が夜にシフトしてきているということで、これは子どもたちの負担になっているだろう、さらには部費を払わなきゃいけないことで、参加できなくなった子どもたちも出てきています。要するにできる人たちはなんとか形は残したけども、それによって参加できない人たちが出たのではないかなと思います。この機会を失った子たちがいるのではないかなということも目を向けていかなければいけないから、そのようなことも話題にしております。 【福祉21茅野】 私は福祉の関係の幹事としてこちらの方に来ていますが、福祉も一人一人年代も違えば性別も違うし、生活状況も違うし、みんな違います。目指しているところも、多分どこのおじいちゃんもおばあちゃんも一緒ってことはありません。それから、今生活が大変だと思っている方が、どういうふうに変えていく状況も違うと思います。また、その中からどういうふうになりたいかっていうこともまた違いますね。100人いれば100通りある。 これは大人の福祉のことだけじゃなくて、子どもさんについても言えると思います。どんなに素晴らしい山に登ろうと思っても、一人一人登りたい山は全然違う山だったとか、登り方は違うだとか、満足度は違うっていうことがあります。押しつけても絶対的に結果は出てこないっていうのは、多分もう10年、20年と延々とやっている方々はよくわかっていらっしゃると思います。では、その子どもさんたちが10年、20年経って力を発揮できるかっていうと、やはりそこは違うのかなと。福祉とか子どもさんに関わることとか、たくさんやってきた中で一番思うのは、やはり一人一人に対応するしかないということが一つあります。 それからもう一つは、何を望んでいたのかとか、何を望めばいいのかっていう、前が見えることがすごく大切だなと思います。防災のことでなるほど思ったのですが、今私たちが守れるのは今あるものだけですよね。これから作るものは子どもが作っていくものなので、そこに応援させていただくしかなくて、今あるものをどうやって守っていくかということが、やはり全ての計画のもとになると思います。 そこをきちんとやって、一つ計画して活動したら、きちんとそこを見極めて次の活動に入っていかなきゃいけない。活動の種類とか数は、どんなに人が減っても、今までこれだけ手を広げてきたので、簡単にはやめるっていうわけにはいかない活動というか、計画がたくさんあると思います。だけど、やる人たちが7割になるという方向に行っているのだから、じゃあどうやって活動していくかっていうところ、そこら辺は本当にみんなで話し合っていていかなきゃいけないかなと思います。 そういう思いを持って、もう一つ。今は茅野市の小中学校の学校運営協議会というのに入らせていただいている、そのメンバーの一人として東部中学校
----	---

委員	に関わっているわけですが、やはり思いを持って学校に行くのと、なんとなく参観日に行くのでは、子どもの反応がね、中学生になってくともう全然違うものがありますので、この子たちのために何をやり、何に不満があるっていうのを一つ一つ聞くことによって広がっていくかなと思います。今はそこを一番感じているので、逆に言う困っている親御さんもこうならいいのにと感じている高齢者もみんな同じだなと思うので、一つ一つやっていくことしかないかな、その結果が一番かなと思ってはいます。 【食生活改善推進協議会】 食生活改善推進協議会としましては、まず自分たちの健康について勉強をさせていただいて、最近だと認知症にならないためにはという勉強をする中で、そのためにはどんな食事をすればいいか、とかいうことを考えながらやっています。 その中で、毎年東海高校と茅野高校の方に食事、料理教室みたいな形で行きますけれど、昔は私たちが行っても茶々を入れてくるような子どもも多かったのですが、今のお子さんは本当になんか聞き分けがいいっていうか、それって本当に聞き分けが良くなったのか、それとも今日はこれで済ませちゃえばいいな、なんて思っているのかわからないです。子どもの声を聞く機会も少ないですけれど、本当は何を思っているのだろうというのがわかるようになると、もうちょっと子どもがこうしたいとかあほしいというのが分かってくるのではないかと思います。それにはこう、時間とか機会が十分じゃないなと思いながら、それでも毎年こうやって関わるのが大事なんて思いながらやっています。 やっていく中で会員が減少するとか、役員のなり手がなくなっていくのが、やはり一番困るところで、皆さんどういうふうになんか対応しているのか知りたいような気がします。
委員	【スポーツ協会】 直近のイベントですが、茅野市の体育館で、今年で3回目になるあそびバ！というイベントがありました。参加の対象者は年中から小学校3年生の保護者さんっていうところが対象となっていて、60組 120名っていうイベントで、主に広報紙で宣伝させていただいているものになります。茅野市スポ健さん、スポーツ協会の共済、あとスポーツ推進委員さんの協力ということで開催しているものです。なかなか好評で、申し込み120名に対していつも上回る感じです。内容としては、幼少期の子どもたちに必要な動作や技能を、ボールを使った運動遊びを中心に楽しく習得することができる親子プログラムということで、外部の企業さんの力をお借りしてのイベントになります。参加費は無料ということで、参加の子どもたちにはオリジナルのTシャツかなんかが配られたりとかして、とても楽しいイベントになっています。 常々、子どもさんと家庭でなかなか時間を取って遊ぶようなことがない、お父さんやお母さん方からは、子どもとこうやって時間を取って遊べてとても良かったっていう感想が寄せられていました。私も小さい子との関わりが普段ないので、こういうイベントとてもいいなと思いました。今後もスポーツ協会、スポ健さんとか共催で継続して開催できれば、と思います。初回は実業団の選手の方が来てくれたりとか、バレーだったらスパイク、トスやパスの練習をするという実際の指導もありましたので、そういうものも付け加えたりしてやっていっても楽しいだろうなと思いました。ただ、運営する側とすると、やはり大変な面もありましたので、運営スタッフの方も興味がある人、ボランティアを募集したり

	とかしながら、巻き込みながら広げていけるのがいいなという感想を持ちました。 もう一つ、スポーツ協会の課題ということで、役員会で話し合われる内容としては、中学校の部活動地域展開ということです。ゆくゆくは中学校の部活はなくなっていくということを受けて、地域の受け皿になり得るクラブというものいろいろな募集しています。はじめは私も大変だろうと思いましたが、実際地域クラブの登録をしてくださる方、チームを整備してくださる方々が増えている状況です。良い点は、部活ではできなかった種類のスポーツが選択できるっていうのがいいなと思いました。課題としては、そこに入った時に発生する月謝とかの費用や遠征費が、やはりどうしても高額になるっていうのがデメリット。今後の課題かなと思います。必ずご家庭のお父さんお母さんの送迎が必要になってくるという問題もあるので、お勤めで送迎ができないお家があるとするならば、子どもさんがスポーツしたくてもできないという問題が今いわれていますので、どんな風にサポートしていくかというのが今後の課題だと思っています。 【茅野市子ども会育成連絡協議会】 毎年行われている、茅野市リーダー研修会という事業があります。一泊二日で縄文の自然の森でお泊まりをして行っています。ここ最近は、やはりスタッフのメンバー、参加者も、コロナ前に比べるとかなり減少しております。募集をかけてもなかなか集まらない。その背景には、おそらく習い事だったり、親御さんの送り迎えもなかなかできなかったり、あと兄弟がいれば兄弟とのスケジュールが重なってしまってなかなか参加できないなど、いろいろな理由はあるかと思っています。この茅野市リーダーズクラブっていう会の存続問題に直面しているところです。 来年、令和9年に入りますと、この会は30周年というふうになります。発足が平成9年です。ですから、今まで30年近くやってきたものを、ここで絶えてはいけないなと思いながら、どうしていこうかというところで5月23日に現役の高校生、茅野市子ども会育成連絡協議会の常任理事、事務局、シニアのリーダーズのメンバー等々が集まりまして話し合いを行いました。話し合いを行った結果、やはり現役高校生のメンバーからは存続していきたいという声が上がりました。誰一人この会をなくしてもいいという人はいませんでした。現役高校生たちの声を大事にして、シニアリーダーの方もお手伝いできる場所はしていく。今までリー研というものが一泊二日でしたけれども、そこはスタッフの減少もあり、無理に一泊二日やらなくてもいいではないかといった声も上がっていますので、今年は日帰りも考え、今までしてこなかったものを、今の人数、スタッフの人数だとか、参加メンバーの人数に合わせて色々工夫してやっていくという試み、それがだんだん見られるようになっていくのではと感じております。 これからどうなっていくか、まだ見いだせてはいませんが、こども課の事務局、それから現役高校生等々と、どんな風にしていけばこのリーダーズクラブのメンバーが集まっていくかなというところを課題としてこれから考えていきたいと思っています。 【主任児童委員】 民生児童委員という中の主任児童委員という立場を皆さんに話をしても、何をやっているのか、どういう人たちなのかっていうことを聞かれることが多いです。知名度や名称含めて、何をやっているのかわからないっていうところで、
副会長	
委員	

委員	情報を収集したいとか、周りを見ていきたいと思いますが、なかなか相談されるという一歩には繋がっていない状況です。 会議は昼間にやりますが、特に役割があって、毎日何かをしなければいけないということではありませんが、地域の子どもたちを見守っていくということで活動しています。もう私たち子育ては終わった、そういう人たちばかりの組織で、もっと現役のお父さん、お母さんたちがこの役をやってくれた方が、子どもたちのことがよく目につくのかなっていうのは個人的には思っています。いろんな事情もありますから、どうしてもこういう役をやるっていうのは、一線を退いたような方たちで組織されている。地域でも担い手がなかなかなくて、実際主任児童委員も本来は15名で構成されなければいけないのですが、まだ一人欠員があって14名で活動している状況であります。 学校とか保育園に出向いたり、いろんなところに呼ばれて、情報を見出したいと思いますが、守秘義務とか個人情報の保護が壁になっていて、公になっていない。だから、自分たちが何かを見つけなければいけないですけど、本当に問題があるのではないかと思われるような家庭は表には現れてこなくて、それがもし第三者の自分たちの目に留まるときっていうのは、本当にもうひどい状態というか、そうならなければ表に出てこないっていうような状況でもどかし、地域に置かれている自分たちの立場として、役に立っているのかどうかをすごく疑問に思うことがあります。 学校長さん、児童相談所さん、警察とかは、おそらく情報の共有が図られているものがあると思いますが、そこに我々のような、一応守秘義務を持っている主任児童委員がそこに同席させていただいて、自分のいる地域に起こっているであろう問題を共有することができていないところが、もう少し何かできることはないのかなと日々思っているところです。 そう[野明 香織1]いった問題に地域の目が向いて、それが学校と共有できていけばいいなと思っているのですが、なかなかそういったところがうまくいかない。私、この役3年1期で2期目に入りました。自分としては、この会とか、この役をやらせていただいて、いろんなところでいろんな方たちのお話を聞いて、とても勉強になっていますけれども、これがもっと子育ての真っ盛りの時期だったら良かったのと思っています。だから、本当に各地区で担い手がいらないのですが、もう少し若い人たちにやってもらえたらなって思っています。 【人権擁護委員会協議会茅野地区部会】 諏訪人権擁護委員協議会は、6市町村で38人います。茅野地区では8人委員がいます。10何年くらい前、小学校の朝読書の時間に人権に関する読み聞かせをしようということで、低学年は紙芝居や絵本、そして高学年は中学生の人権作文を書きますが、その作文の朗読を朝5分、10分くらいの朝読書の時間にしています。10何年かかけて市内の小学校全部に入ることができるようになってきています。人権の花という活動もやっているんで、小学校一校ずつ回って行って、担当の学校から読み聞かせさせてくださいということでお願いをして、9校全部に広まったという感じです。だんだん人権のおばちゃんとかおじちゃん、とかいう感じで関わりが持てるようになってきました。日頃の友達に対する優しい思いやりの心だったり、何気ない心遣いだったりっていうことが垣間見える、そんな感想が聞かれるようになってきて良かったなと思っています。年に一回しかそのクラスに入らないですけども、子どもたちの心の育ちっていうのは、やはり幼いうち、保育園も人権啓発でやっていますが、小学校大事だなと思っています。本当は中学校の人権教室なども行いたいなと思っています。
----	---

委員	ますが、なかなかそこまでできないところで、これから考えていきたいなと思っています。 もう一つ、子どもたちに関することかというと、SOS ミニレターっていうのが全国の子どもたちに配られています。年に茅野市で7、8通くらい来ますけれども、私たちが読ませていただいて返事を書いています。いじめに関する問題や、お友達との関係に悩んでいるというようなことがあるので返事を書いています。この頃、お家の方との関係でお手紙をもらうことが結構あります。そういう時にはお母さんとの関わりや、お家の方との関わりについて、私たちはどうしてもそこまでは踏み込めないところなので、いろいろな関係機関に、まあ主には学校ですけれども、校長先生や担任の先生なんかと話をさせていただくようなこともしています。小さい頃からそうやって悩んでいる子どもたちの声を受け止めて、何かの解決、全部解決するわけではなく、そこまで私たちは関われないですけれども、そういう力を持てるような子どもになっていってもらえればいいかなんていうふうに思っています。 【茅野市保護者会連合会】 私がこの連合会になって、市内の各保育園の保護者の方から要望を聞く機会がありましたが、非常に生の声が聞こえて参考になりました。ご飯を保育園から出してほしいっていうのが一番多かったです。その話はまた違ってきますが、そういった生の声というのは非常に参考になって、考えていく上では貴重な意見だなと思いました。 保護者会も、今負担軽減や会の縮小をしていまして、主に LINE とかでやりとりしていますけれども、個人的にはやはり保護者の方と顔を合わせてコミュニケーションするというのは、また別の意味ではいい機会だなとは思いますがなくなってきています。先ほど話ありましたが、行事への参加が減少しているというのも一つ課題にはなっていると思いますので、どうして行事やイベントに参加することが嫌なのかとか、そういった意見もあれば聞いていくのも必要かなと思いました。
委員	【茅野市PTA連合会】 このPTAの役を受けるのも3年の役になりまして、私は年度の担当というような形になっていて、毎年学校単位でうつっていきます。課題感として持っているのが、今どういう会議に何のために出ているかが、正直わからないような状態で参加をさせていただくケースが非常に多くて戸惑います。このアンケートの意図も、ちょっとわかりきらずに書いていたりするところもあって、戸惑いながら書いたというところもあります。お話のあったLINEとかのコミュニケーションというところで、LINEもうまく活用しながら我々はやっていまして、LINEのオープンチャットを作って、各学校の課題などを求めて、それに対して「うちの学校ではこういった取り組みしています」みたいなことをやったり、LINEだけだと顔が見られないから、普通の会議とは別で座談会や、意見共有のような機会を今年度は設けて、色々取り組みを進めているところです。 今、実際子どもの数というのが非常に減っていて、各地区でやっていた地区の児童会とかも継続ができないような。私は金沢地区ですけど、金沢だって非常に児童数が少なく、そういった活動の維持というのが難しかったり、あと金沢はスケートリンクがありますが、PTAの役員だけじゃなくて、PTAの普通の保護者もスケートリンクの維持活動とかっていうのがいろいろあたってくるのですが、そういったところも何のためにやるのかっていうところを求められたりし

委員	ます。普通に子どものためだからという言葉でも通用しない世の中になってきていて、そういったところで協力してくれる人たちの負担がかなり増えています。でも、地域の声としてはそういったものは継続してやるべきだとかっていうところの狭間に立っていて、難しいなと思っています。部活動のケースは、やはり中学生なんか部活送り迎えができないからってというケースで諦めているようなことが実際起きているという声は、こうやってPTAの方でもあがってきてますので、今回書かせていただいております。 【茅野警察署】 茅野市がすごいなと思うのは、他の市町村よりも、このような会議が非常に多く、時間外を使ってでもみんなで意見交換しようってところが、本当に他の地域にはないのかなと思っていますところ。実務者レベルの人たちを取り入れて、今後そういうことも増やしていただけたらいいのかなと思います。まずどういう人を取り入れるのかを明確にして、そういうところで私たちも取り扱う中で、じゃあこういうところをご案内しますよっていうところを伝えていけたら、どんどん良くなっていくのかなと思っています。 みなさん、こういう良い活動をされていてすごいなと思いますけれども、幅が広過ぎ、枝分かれがし過ぎていて、結局どこに相談したらいいのか一元化できてないので、何回か電話を繰り返して転送されていると、保護者や子どもは明確に困ります。繋がらない。そうするとチャットGPTとかに子どもたちは走り、繋がるのが公の機関になってきて、市役所さんとかがメインで聞くことになってきたりする事情があるので、まあどういった方策で広げていくのかなっていうのを考えていければいいかなと思っています。
委員	【諏訪児童相談所】 児童相談所では、虐待対応というイメージが皆さんあるかなというふうに思いますが、長野県では社会的養育推進計画というものを策定しておりまして、それは令和6年度に見直しがされました。それで、後期計画が令和7年度からスタートしておりまして、今年度が2年目ということになります。この後期計画、この前年の計画とだいぶ大きく見直しがされて変わってきております。家庭養育優先の原則と子どものパーマネンシー保証、この二つが共通理念となっていますけれども、私たちが虐待で家庭に入った時、その親子が離れたままにならないよう、いかに家庭に戻すか、いかに地域に戻すかを考えて支援すること、それから子どもも今だけではなく、永続的にこれからずっと先も誰かに支えられているのだという安心感の中で成長していける、そんなことを目指すようにというふうに変わってきております。 社会が大きく変わって、それに沿って自分たちも変わらなければいけないという話がありますけれども、私たち児童相談所もまさにそうで、今、私たちが何をすべきかということも大きく変わってきています。この計画は児童福祉法の一部改正が国の方で行われまして、それを基に作られてきているわけですが、この改正の中で大事にされていくことのひとつが、子どもの意見をしっかりと聞くということ。子ども真ん中というキャッチフレーズでこども家庭庁ができましたけれども、子どもの意見をしっかりと聞いて、そこを大事に支援していくというのが柱となってきております。 アンケートの話もありましたけれども、子ども自身、当事者がどんなふうに考えて、どんなことを望んでいるのかということも改めて考えられるといいかなと思ったりします。

委員	【長野県子ども・若者育成支援推進本部諏訪地方部】 今、課題を感じている取り組みの一つで、フードドライブがあります。今年も、夏休み統一キャンペーンで地域の皆さんに食品の提供等いただきまして、本当にありがたいなと思っております。 これは、やり始めて長いのですが、最近やはり物価高とかエシカル消費ということで、あまり無駄に買い物しないというような動きもありまして、食べ物之余剰食品というのが減ってきている。それでやはり寄付いただいている食品も減ってきているという状態です。支援のあり方ややり方を、もう少し考えていかなきゃいけないかなと思っています。また、先ほどから人材不足という話がどの団体からも出ておりますけど、行政の方でも本当に人が少なくなっていますし、子ども支援の団体の皆さんの方も活動している中で、食べ物を本当に効率よく効果的に配布するということなかなか難しくなっています。効率よくできるようなシステムというようなものを、構築していく必要があるのかなと考えています。地域全体で子ども家庭を支える仕組みづくり、県としても努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
委員	【茅野高等学校】 なかなか先が見えない時代ですが、中期的に学校とか教育行政が問われ、うちの地域に問われる可能性があるのが、このままでいくとおそらく福祉コストと教育コストの増大が予想されるというふうに考えられます。なぜかと言いますと、家庭によって学習する機会やかけられる費用に、著しく格差が生じていると感じています。今日ご参集の皆さんが様々な場面で対応してくださっていることがわかりました。 また、市の施策目標の2のところに「支える」とありますが、その重要性は増すだろうと思っていますし、支援が必要な家庭ほど周囲の介入が難しい。まさにその通りだと思います。格差の下の方にいるご家庭は、自主的な参加や相談はしないだろうと思っています。本校もそういったことを防ぎたいと思っております。不登校経験の生徒の受け入れを進めているところです。先日、保護者向けのチラシを作って近隣の六市町村回りしました。今日の会もそうですが、茅野市はそういったところになんとかしようという思いがあるということも感じてきたところです。 引き続き、公立高校でできることを、多くはないですけども対応したい、そうしないと子どもたちの未来がないというふうに思っていますので、またできることがありましたら声かけていただければと思います。
委員	【茅野市教育委員会】 今日皆さんのお話を聞いたことが、私にとっても教育委員会にとっても非常にプラスになったことが多いと思うので、これはみんなで共有したいなと思います。今は本当に変換期であり、頭の切り替えをしなければいけない時期に来ているというのを非常に強く感じます。子どもたちは頭が柔らかいですがけれども、全ての大人が頭を切り替えて、これからのことを考えていかなきゃいけない時期であるということ非常に強く感じております。
委員	【茅野市校長会】 校長会としては、たくましくやさしい夢のある子ども、そこに取り組んでいます。縄文ビーナスプランは、茅野市としてこういう教育でいくという取り組みで

委員	す。トコトンという県の施策がありまして、ウェルビーイング実践校のその指定校を、この度茅野市の小中学校全て13校で受けるという形で、その中で考えているのは、その地域にある教育的財産を生かした特色ある小中一貫校を作ろう、その中できちんとした探求をしていこうということで、取り組んでいるところです。 紹介しますと、永明中学校区は読書と図書館教育であり、北部中学校区は縄文市民科学習、長峰中学校区は生き方、そして我々東部中学校区は共生社会、福祉。年間の学びを小学校6年だけで考える、中学校3年で考えるのではなくて、小中一貫してそこを目指していくということをすすめています。例えば東部中学校であれば泉野小さん、玉川小、東部中で、3校が同じ学校だという状態で常に研修をして、みんなで気持ちを揃えてやっています。 特に茅野市がいいなと思うのは、フリースクールさんともものすごく早く連携がすすんで、どこへ行っても学べるというか、私たちのところから出て行っちゃうってことはすごく残念な部分もあるんですけども、子どもによってはこのフリースクールがいいって子どももやはりいまして、そこでの学びも学校での登校という形でカウントしています。 地域を本当にとことん活かして、地域の人、物、ことを教材化して、地域と深く関わり合いながら、課題を見つけて解決する、そういう探究が今始まり、進化していく状況です。 【茅野市園長会】 保育園では、今子育て真っただ中のお母さんやお父さんたちを支えながらやっております。一日保育士体験で、保護者の方に先生になり、体験を通して子育ての楽しさを知ってもらったり、関わりや子どもに対することを深めたりする良い機会にもなっています。普段保育園の送り迎えしかしてないお父さんやお母さんが、保育園の一日保育士体験に参加していただいて、子どもの良いところを見つかったり、保育士の姿を見ながら自分もこうしてみようというところを振り返っていただいたりする機会になっています。 今日もお父さんが1人来ました。泥だらけになりながら一緒に遊んでいて、どうでしたか？と聞いたら楽しかったです、と言っていました。年中のお父さんだったのですが、あと1回しか来られないのが残念だ、と言っていました。共働きのおうちが多くなっている現在では、0、1、2歳の入所も多くなっているのも、やはり参加していただく方が少なくなっているなど感じています。しかし、子育てに協力的なお父さんたちも多くなっているのも、こんなところで共に一緒に考え合えたらいいなというふうにも思っております。 また、小学校と保育園の連携も取らせていただいているので、保育園の子の面倒を見るっていう形ではなく、共に一緒に育っているというところをすごく感じているので、保育園と小学校の関係も大事にしていきたいと思っています。様々な方たちがいらちゃっていて、地域の方たち、学校の交流、サマーチャレンジなど、いろんな方たちが保育園にも来ていただいています。子どもたちと共に育っていけることをすごく感じているので、これらのことを取り入れながら、子どもたちの成長が含めて温かい保育が進めていければというふうにも思っております。 【商工会議所】 商工会議所女性会としては、地域に関わる事業をいくつか取り組ませていただいています。子どもに関わる事業としまして、フードドライブ事業が9年目
委員	

	になります。令和7年度はお米など、調味料、インスタント麺などを430点、まいさば茅野へ寄贈させていただきました。令和8年度は、今始まっていますけれど、長い夏休みの食料に困っているご家庭があると聞き、早速時期を早めて現在会員で呼びかけて募集中で、来週にお届けできるかなというところですよ。 もう一つの事業ですが、生理の貧困支援事業が5年目になります。お店とか各事業所に募金箱を設置しまして、集まった募金によって令和7年度は230パックを購入し、学校教育課、こども課へ寄贈いたしまして、市内の学校と図書館、こども館などに配布させていただいております。学校ではトイレとか保健室に置いていただいて、大変ありがたい事業ですとの声をいただいております。 一方で、本来これはトイレに設置して、本当に困っている子が自由に使用できることが望ましいのですが、なかなかそこまでまだ周知できてないというか、設置方法や渡し方なども先生方もまだまだ悩まれているという意見もありますので、この支援の目的を周知して、理解がどんどん広がっていきいかなと思っております。今後はフードドライブも生理の貧困支援事業も、何がどのように必要かをお聞きして、スピーディーに支援できるように取り組んでいけたらなと思っております。 商売をやっている近頃感じていることですが、私のお店でも体育着とか学用品、学生服などを取り扱わせていただいております。物価高騰の影響で、保護者の皆様にも大変経済的負担が大きくなっていて、本来必要な体育着や、学校用品を子どもさんに我慢させているという現状が年々ひどくなるというか、見受けられます。サイズアップしてすぐにでも買いたいけれど、結構我慢させていて、毎日着るものですからいたんでいる。それをひしひしと感じております。ここで茅野プレミアム商品券が出ましたので、早速それを使って今まで我慢させていたというお母様方がお見えになってきております。やはり買い替えを先延ばしにすると、子どもさんたちにも少し負担がかかります。お古を着ることは決して悪いことではないし、むしろいいことですが、学校生活を安心して、気持ちよく生活していただけるためには、保護者の負担を軽減できるような方法をやはり検討したり、私たち業者も製品に工夫したり、売り方に工夫したり、デザインに工夫したりということも、今まで以上に必要になってくるかなと思っております。 あとは個人的な意見ですが、先ほど市川会長もおっしゃっていた機会を失った子たちという言葉がありまして、私も毎日それを感じております。先ほど言ったように、いろんな事情で負担の形が変わってきて、親の負担、時間の負担、お金の負担なんかがとても多くなってきていて、それによって機会を失った子たちがいるのがとても気になります。体験格差というようなものが、どんどんひどくなっていくのではないかと、なんて心配しています。 先ほどスポーツ協会さんの方でもあそびバ！の話をさせていただきましたけれど、やはり機会を多く持つ、多く企画したりとかも必要です。。部活の地域移行によって機会を失っていった子どもたちへも、そういう場所が必要じゃないかなと思います。猿谷校長先生もおっしゃったように、本当に出てきてもらいたい子はなかなか出てこないっていう課題、出ていかれない、呼びかけられないという課題も出てくると思いますけれど、それもやはり深めて、考えていければなと思っております。
こども課長	ありがとうございました。各団体の皆様から、様々なご意見や思いを聞かせていただきました。今回、皆様にコピーをしてお配りしましたので、ゆっくり一読してもらいながら、団体に帰って共有してもらおう場を作っていただければ大変あ

事務局	りがたいなと思いました。以上で、意見交換の時間は終わりとさせていただきます。 続きまして、その他をお事務局からお願いします。 はい、二点お願いします。資料の5をご覧ください。茅野市こども・家庭応援会議の専門委員会の報告です。本来、この会議で第4次どんぐりプランの策定の議論を進めていくべきですけれども、大勢の皆さんの意見が得られるという一方で、集約が難しいという点もあります。専門委員会で集中的に検討をし、案を整理した上で、この会議に報告をし、議論を重ねていくという形を昨年から取っております。今年度もこの専門委員会を継続して設置することにつきましては、昨年度の委員の皆様にも了承をいただいているところですので、今年度も専門委員会を設置していきたいと思います。具体的には、大体3分の1ぐらいの6、7名程度の専門委員会の委員という方をお願いをして、会長、副会長、それからその委員さんたちと、専門委員会の中で第4次どんぐりプランの考え方を深めていきたいと思っております。資料5にあるのは、昨年度の専門委員会でどんなことをしたかという、概要を書かせていただいております。またご覧いただければと思います。 それからもう一点、資料6になります。10地区にある地区こども館というもののあり方の検討についてです。市内の10か所にある地区こども館のあり方の検討につきましては、昨年度から利用者アンケート、ヒアリング等を行い、議論を継続しております。利用者の少ない午前中の一部休館につきまして、宮川地区、それから米沢地区などで、検証のため試行をしてみたいということで報告がありました。資料は、各地区で作成した周知用のチラシとなります。この周知方法も、各地区でどこへ出すことによって利用者に影響がないだろうかということを考えながらやっていただいております。こちらの方も随時この会議の中で報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
こども課長	その他としまして皆様から何か、ありましたらお願いします。 ないようなので、閉会の言葉を小澤副会長からお願いしたいと思います。
副会長	11 閉会